

1 固定資産の取得、処分、減価償却費(「第87 特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。)及び減損損失累計額の明細

(単位:円)

資産の種類	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額	差引当期末残高	摘要	
						当期償却額				
有形固定資産 (償却費損益内)	建物附属設備	109,989,242	—	—	109,989,242	20,742,106	7,425,925	—	89,247,136	
	器具備品	4,279,012	—	—	4,279,012	3,525,051	414,277	—	753,961	
	計	114,268,254	—	—	114,268,254	24,267,157	7,840,202	—	90,001,097	
有形固定資産 合計	建物附属設備	109,989,242	—	—	109,989,242	20,742,106	7,425,925	—	89,247,136	
	器具備品	4,279,012	—	—	4,279,012	3,525,051	414,277	—	753,961	
	計	114,268,254	—	—	114,268,254	24,267,157	7,840,202	—	90,001,097	
無形固定資産	ソフトウェア	3,724,235,094	154,237,200	3,724,235,094	154,237,200	2,636,860	625,355,834	—	151,600,340	注1
	ソフトウェア 仮勤定	70,350,000	—	70,350,000	—	—	—	—	—	
	電話加入権	1,975,080	—	—	1,975,080	—	—	954,480	1,020,600	
	計	3,796,560,174	154,237,200	3,794,585,094	156,212,280	2,636,860	625,355,834	954,480	152,620,940	
投資その他の資産	敷金・保証金	101,558,635	—	—	101,558,635	—	—	—	101,558,635	
	計	101,558,635	—	—	101,558,635	—	—	—	101,558,635	

(注1)新包装管理システムの開発等の取得による増 154,237,200円

電子出願ソフトウェアの改造等の減価償却期間満了による減 571,041,076円

特許庁への業務移管による電子出願ソフトウェアの改造等の除却による減 3,153,194,018円

2 資本金及び資本剰余金の明細

(単位:円)

区 分		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
資本剰余金	運営費交付金	535,080	—	—	535,080	電話加入権
	無償譲与	1,440,000	—	—	1,440,000	電話加入権
	計	1,975,080	—	—	1,975,080	
	損益外減損損失累計額	△ 954,480	—	—	△ 954,480	
	差引計	1,020,600	—	—	1,020,600	

3 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細

(単位:円)

交付年度	期首残高	当期交付金額	当期振替額				小計	期末残高
			運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	ソフトウェア仮勘定見返運営費交付金	資本剰余金		
平成23年度	1,181,089,897	0	1,181,089,897	0	0	0	1,181,089,897	0
平成24年度	1,001,666,702	0	170,453,103	0	0	0	170,453,103	831,213,599
平成25年度	980,073,936	0	0	0	0	0	0	980,073,936
平成26年度	0	9,484,527,000	8,644,949,358	83,887,200	0	0	8,728,836,558	755,690,442
合計	3,162,830,535	9,484,527,000	9,996,492,358	83,887,200	0	0	10,080,379,558	2,566,977,977

(2)運営費交付金債務の当期振替額の明細

平成23年度交付分

(単位:円)

区分	金額	内訳		
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返運営費交付金	0	— (業務達成基準を採用した業務は無い)	
	資本剰余金	0		
	計	0		
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返運営費交付金	0	— (期間進行基準を採用した業務は無い)	
	資本剰余金	0		
	計	0		
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	1,181,089,897		費用進行基準を採用した業務は、以下の業務である。 工業所有権情報普及業務 1,181,089,897 円
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返運営費交付金	0		
	資本剰余金	0		
	計	1,181,089,897		
会計基準第81第3項による振替額	0			
合計	1,181,089,897			

平成24年度交付分

(単位:円)

区 分	金 額	内 訳		
業務達成基準 による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0	— (業務達成基準を採用した業務は無い)	
	資本剰余金	0		
	計	0		
期間進行基準 による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0	— (期間進行基準を採用した業務は無い)	
	資本剰余金	0		
	計	0		
費用進行基準 による振替額	運営費交付金収益	170,453,103		費用進行基準を採用した業務は、以下の業務である。 工業所有権情報普及業務 170,453,103 円
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0		
	資本剰余金	0		
	計	170,453,103		
会計基準第81第3項による振替額	0			
合 計	170,453,103			

平成25年度交付分

(単位:円)

区 分	金 額	内 訳		
業務達成基準 による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0	— (業務達成基準を採用した業務は無い)	
	資本剰余金	0		
	計	0		
期間進行基準 による振替額	運営費交付金収益	0		
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0	— (期間進行基準を採用した業務は無い)	
	資本剰余金	0		
	計	0		
費用進行基準 による振替額	運営費交付金収益	0		平成26事業年度において該当する事項はございません。
	資産見返運営費交付金	0		
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0		
	資本剰余金	0		
	計	0		
会計基準第81第3項による振替額	0			
合 計	0			

平成26年度交付分

(単位:円)

区 分	金 額	内 訳	
業務達成基準 による振替額	運営費交付金収益	0	
	資産見返運営費交付金	0	
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0	－(業務達成基準を採用した業務は無い)
	資本剰余金	0	
計	0		
期間進行基準 による振替額	運営費交付金収益	0	
	資産見返運営費交付金	0	
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0	－(期間進行基準を採用した業務は無い)
	資本剰余金	0	
計	0		
費用進行基準 による振替額	運営費交付金収益	8,644,949,358	費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。 工業所有権関係公報等閲覧業務 146,230,102 円※1 審査審判関係図書等整備業務 206,236,995 円※2 特許情報の高度利用による権利化推進事業 854,614,916 円※3 工業所有権情報普及業務 5,174,926,149 円※4 工業所有権相談等業務 146,337,466 円※5 情報システム業務 1,104,511,882 円※6 人材育成業務 730,899,517 円※7 一般管理業務 281,192,331 円※8
	資産見返運営費交付金	83,887,200	
	ソフトウェア仮勘定見返 運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	8,728,836,558	
会計基準第81第3項による振替額	0		
合 計	8,728,836,558		

注) ※1: 損益計算書の費用額に、減価償却費1,010,209円及び複写手数料収入からの負担額13,747円を減じた額である。

※2: 損益計算書の費用額に、複写手数料収入からの負担額19,388円を減じた額である。

※3: 損益計算書の費用額に、減価償却費735,702円及び複写手数料収入からの負担額80,341円を減じた額である。

※4: 損益計算書の費用額から平成23年度交付分及び平成24年度交付分の収益額を減じ、複写手数料収入からの負担額613,546円を減じた額である。

※5: 損益計算書の費用額に、減価償却費172,504円及び複写手数料収入からの負担額13,757円を減じた額である。

※6: 損益計算書の費用額に、減価償却費624,447,099円及び複写手数料収入からの負担額103,834円を減じた額である。

※7: 損益計算書の費用額に、減価償却費5,921,787円、研修受講料収入からの負担額111,139,601円及び複写手数料収入からの負担額68,711円を減じた額である。

※8: 損益計算書の費用額に、減価償却費908,735円、租税公課1,033,300円及び複写手数料収入からの負担額26,435円を減じた額である。

(3) 運営費交付金債務残高の明細

(単位:円)

交付年度	運営費交付金債務残高	残高の発生理由及び収益化等の計画
平成23年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0 — (業務達成基準を採用した業務は無い)
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0 — (期間進行基準を採用した業務は無い)
	費用進行基準を採用した業務に係る分	0 ○費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。
	計	0

(単位:円)

交付年度	運営費交付金債務残高	残高の発生理由及び収益化等の計画
平成24年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0 — (業務達成基準を採用した業務は無い)
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0 — (期間進行基準を採用した業務は無い)
	費用進行基準を採用した業務に係る分	831,213,599 ○費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。 ○運営費交付金債務残高の発生理由は、入札差額が生じたことによる経費の減少及び期を跨いだ契約済繰越等により、翌事業年度に繰り越したもの。(注:運営費交付金の収益化については、自己収入との按分等により充てることとしている。) ○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度において収益化する予定。
	計	831,213,599

(単位:円)

交付年度	運営費交付金債務残高	残高の発生理由及び収益化等の計画
平成25年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0 — (業務達成基準を採用した業務は無い)
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0 — (期間進行基準を採用した業務は無い)
	費用進行基準を採用した業務に係る分	980,073,936 ○費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。 ○運営費交付金債務残高の発生理由は、入札差額が生じたことによる経費の減少及び期を跨いだ契約済繰越等により、翌事業年度に繰り越したもの。(注:運営費交付金の収益化については、自己収入との按分等により充てることとしている。) ○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度において収益化する予定。
	計	980,073,936

(単位:円)

交付年度	運営費交付金債務残高	残高の発生理由及び収益化等の計画
平成26年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0 — (業務達成基準を採用した業務は無い)
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0 — (期間進行基準を採用した業務は無い)
	費用進行基準を採用した業務に係る分	755,690,442 ○費用進行基準を採用した業務は、全ての業務である。 ○運営費交付金債務残高の発生理由は、入札差額が生じたことによる経費の減少及び期を跨いだ契約済繰越等により、翌事業年度に繰り越したもの。(注:運営費交付金の収益化については、自己収入との按分等により充てることとしている。) ○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度において収益化する予定。
	計	755,690,442

4 役員及び職員の給与の明細

(単位:千円、人)

区 分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役 員	(2,904千円)	(2人)	(—)	(—)
	32,691千円	2人	—	—
職 員	(251,813千円)	(57人)	(—)	(—)
	738,557千円	84人	—	—
合 計	(254,717千円)	(59人)	(—)	(—)
	771,248千円	86人	—	—

注) 1. 役員に対する報酬の支給基準

独立行政法人工業所有権情報・研修館役員報酬規程(20010401情館005)により支給しています。

2. 職員に対する給与の支給基準

独立行政法人工業所有権情報・研修館職員給与規程(20010401情館005)により支給しています。

3. 職員の給与の支給人員数は、平均支給人員数により記載しています。

4. 役員の上段()書きの計数は、非常勤役員に対するもので外数となっています。

5. 職員の上段()書きの計数は、契約職員に対するもので外数となっています。

5 関連公益法人等に関する情報開示

一般財団法人 日本特許情報機構

(1) 業務の概要

産業財産権に関する情報(以下「特許情報」という。)の充実及び利用の促進を図ることにより、産業技術に関する知識及び思想の総合的な普及啓発並びに企業等における技術開発の促進に貢献し、もって我が国の産業及び経済の発展に寄与することを目的とする。

- (1) 特許情報の収集、加工及び提供
- (2) 特許情報の調査及び分析
- (3) 特許情報の処理及び提供に関する調査、研究及び開発
- (4) 特許情報の翻訳並びに翻訳に関する調査、研究及び開発
- (5) 前各号に掲げる事業の成果の普及啓発及び利用促進

(2) 情報・研修館との関係

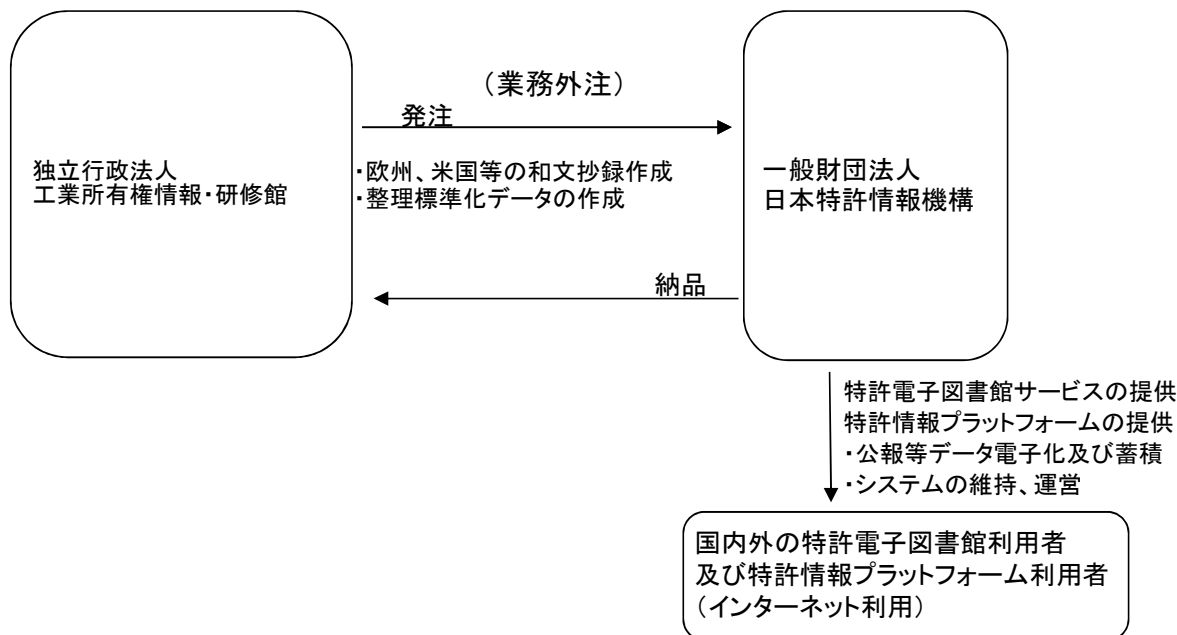
外注業務等により、独立行政法人会計基準第129の「関連公益法人等の範囲」のうち、事業収入に占める独立行政法人との取引に係る額が三分の一以上である公益法人等

(3) 役員氏名

氏名	役職名	情報・研修館における最終役職名	備考
越智 謙二	理事長	—	
守屋 敏道	専務理事	—	
向坪 清	常務理事	—	

注) 常勤の役員のみを記載しています。

(4) 取引の関連図



(5) 財務情報

① 貸借対照表関連 (単位:円)

資産の額	9,415,737,492
負債の額	3,866,160,187
正味財産の額	5,549,577,305

注) 各計数は、消費税を税抜方式により処理したものです。

②正味財産増減計算書関連

(単位:円)

一般正味財産増減の部			
	収 益	受取補助金等	0
		事業収益	9,082,077,162
		その他の収益	48,948,797
		計(A)	9,131,025,959
	費 用	事業費	8,462,274,548
		管理費	391,262,787
		その他の費用	0
		計(B)	8,853,537,335
	当期増減額(C) = (A) - (B)		277,488,624
	一般正味財産期首残高(D)		5,268,588,681
一般正味財産期末残高(E) = (C) + (D)		5,546,077,305	
指定正味財産増減の部			
	収 益	受取補助金等	0
		その他の収益	0
		計(F)	0
	費用等(G)		500,000
	当期増減額(H) = (F) - (G)		-500,000
	指定正味財産期首残高(I)		4,000,000
指定正味財産期末残高(J) = (H) + (I)		3,500,000	
正味財産期末残高(K) = (E) + (J)		5,549,577,305	

注)各計数は、消費税を税抜方式により処理したものです。

(6)基本財産の状況

法人の基本財産に対する出えん、拠出、寄付等及び法人の運営費、事業費等に充てるために平成26事業年度において負担した会費、負担金等はございません。

(7)取引の状況

①法人に対する債権債務の明細

(単位:円)

債権種別	金 額	債務種別	金 額
未収金	0	未払金	2,418,719,972

②法人に対する債務保証の明細

該当なし

③法人の事業収入の金額とこれらのうち情報・研修館の発注等に係る金額及び割合

(単位:円)

法人の事業収入の金額	うち情報・研修館の発注に係る金額	割 合
9,808,643,334	5,919,107,704	60.35%

注)法人の事業収入の金額は、法人の正味財産増減計算書が税抜方式で作成されているため、事業収入額(9,082,077,162円)に1.08を乗じた額を計上しています。

[内訳]

区分	金額(円)	割合(%)	備考
競争契約	5,916,308,330	100.00%	
企画競争・公募	0	0.00%	
競争性のない随意契約	0	0.00%	
計	5,916,308,330	100.00%	

注)予定価格が国の基準(予算決算及び会計令第99条に定める基準)を超えないものは除いておりません。

6 その他

1から5以外の附属明細書については、当事業年度は該当がないため、記載を省略しております。